

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2073400521 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人豊智福祉会 | | |
| 事業所名 | 認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー | | |
| 所在地 | 長野県長野市豊野町豊野2298-2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成21年10月5日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年2月24日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2073400521&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部 | | |
| 所在地 | 長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A | | |
| 訪問調査日 | 平成21年11月13日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の散歩にお互い声を掛け合い、気の合う方と一緒にいたりすることで、心の安らぐ時間を図っている。いろいろな人に会える喜びがまた、楽しみのひとつとなっている。特にお花や、畑の野菜、農家の果物畑を目にし、感動される場面が多く、目にする刺激を大事にしていきたい。
地域の朗読ボランティア、小学4年生との交流日には「また、来てくれたの～」と来所をとても心待ちにされている。また、玄関前でお茶飲みには通りがかりの利用者、職員にも声を掛け、新しい話題を提供して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊野町泉平地区という小高い丘の上に泉平ファミリーがある。特別養護老人ホームに囲まれ、併設には知的障害者施設もある。玄関の扉を開けると職員のととても穏やかな笑顔で迎え入れられた。民家とは少し離れており地域住民との交流が難しいホームなのかと思われたが驚くほど地域の人々から見守られて生活しているホームであった。小学校の定期的な交流や地域の四季の食べ物を作りに来てくれるグループ、老人会の方が野菜を持ってお茶のみに来てくれる。家族会も定期的に開かれ、利用者の家族もほぼ全員が出席され、一緒に会の準備をしたり、運営推進会議に出ることでホームの理解が深まるなどとても交流が盛んなホームであった。これも施設長や職員の「ようこそいらっしゃいました。歓迎しますよ」といわんばかりの笑顔や態度の表れであろうということが1日の中で感じ取れるホームであった。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| ユニット名(りんどう) | | | | |
|-------------|--|---|----|---|
| 項目 | | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当する項目に印 |
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

| サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します | | | |
|--|--|----|---|
| ユニット名(しらかば) | | | |
| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当する項目に印 |
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 常に目にするできるように掲げ、職員に問いかけをしている。移動、新規採用時には、ホールの理念を説明している。 | 理念は、5つ掲げられ月1回の職員会議で共有している。また、地域への発信は地域に発行している新聞などでも行っている。事業計画の中にも方針として地域密着型サービスとして地域との支えあい、家庭的なぬくもりの中で利用者一人ひとりに合わせた生活とうたっている。 | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 東小学校の音楽会に招待されたり、地域の夏祭りに参加、ホームの夏祭りには、地域住民の方を招待し交流を図っている。 | 東小学校との交流が年4～5回あり音楽会にも招待される。利用者とお手玉、トランプなど行い楽しいときを過ごす。地域の祭りに参加やホームの夏祭りに招待し交流を図っている。また、食会と呼ばれる食事改善普及会のメンバーが四季折々に利用者の食べたいものを作りに来てくれるなど楽しみの場になっている。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 夏祭り、新年会の際に家族会を設け、地域の方にも参加して頂き、意見・要望をお聞きしている。また、災害時の協力体制も図っている。 | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 初年度の会議に於いて、地域包括支援センター所長より地域支援センターの概要を説明していただいた。また、前年度の報告や新年度計画を皆さんに図り、サービスの向上に活かしていく。 | 地域住民、組長、地域ボランティア、包括支援センター、家族代表の方が集まり2ヶ月に一回は行っている。家族会も兼ねて年2回は行っており多くの家族参加の中でたくさんの意見をいただき、ホームの理解もなされている。この中で看取りに付いても課題になった。 | |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 介護認定困難事例等の相談に、支所に出掛け、意見・助言を頂いている。 | 介護あんしん相談員が定期的に訪問されている。介護認定などで困ったことがあれば、随時相談している。 | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないケアを徹底している。会議等でもさらに確認をとっている。 | 身体拘束については十分理解なされ、研修会に行った職員から車椅子に座らせられていることの苦痛なども学び苦痛のない取り組みに努めるなど日常の中での対応の工夫もしている。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 言葉の虐待に気をつけ、職員間で声を掛け合っている。また、職員会議等で学ぶ機会を設け、防止に努めている。 | | |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修に参加し、職員会議で報告・複命書を書き、職員に回覧している。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所者の事前面接に出向き、できる限りの情報をお聞きしたり、説明をしている。また、見学の機会を設け、納得された上での契約としている。 | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者からの意見、不平不満を傾聴したり、家族来所の際にお話を聞かせて頂いている。また、苦情箱を設けてい、苦情処理委員会を年数回開催している。月一度の介護安心相談員が来所。 | 家族の面会時にそのつど家族の思いや意見を聞くようにしている。また、苦情処理箱を設けており、苦情処理委員会が法人の中に設置されている。運営推進会議に家族会と併せて行うときは多くの意見が出され、職員の異動に対しても苦言なされ2人担当により利用者の異動時のダメージの軽減に努めた。 | |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月の会議でお互いに意見を出し合っている。 | 毎月の会議で意見をいう場がある。日常生活の中でも職員やリーダーとの間で失敗や意見など言える関係がありチームワークがなされている。 | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | <p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p> | <p>就業規則に沿った勤務体制で、資格・経験・学歴など考慮している。</p> <p>家庭の状況に於いても配慮に努めている。</p> | | |
| 13 | | <p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>段階に応じた研修を行っている。</p> <p>研修報告は、定例の会議に於いて伝達研修としている。</p> | | |
| 14 | | <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>研修先で状況を聞く機会を得ている。</p> <p>善光寺グループホームネット会議には隔月に参加し交流を図っている。</p> | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | <p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p> | <p>事前面接の際に、できる限り本人の情報を得て、相手を理解する。本人の訴えに傾聴し、信頼関係づくりに努力をしている。</p> | | |
| 16 | | <p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p> | <p>家族の悩みを傾聴し、家族と本人が安心されるよう支援づくりに努めている。</p> <p>また、家族が相談しやすい雰囲気作りにも心掛けています。</p> | | |
| 17 | | <p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p> | <p>事前に家族と本人に面接を行い、何が問題になっているのか、しっかりと把握した上で対応に努めている。また、変化のあった時は必ず家族に報告し、本人の方向性を出すように支援している。</p> | | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 人生の先輩である事を忘れずに、昔の知恵(生活、畑仕事、食事、掃除)等色々と教えて頂き、共に行動するようにしている。 | | |
| 19 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族に恵まれており、来所の際には状況を報告し、安心した生活が送れるよう、家族と共に見守りながら支援をしている。 | | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | キーパーソンだけではなく、ご兄弟、お孫さん、親戚、ご近所の人、友人等の来所時には、居室で一緒にお茶を飲みながら会話をされ、思い思いに過ごして楽しんで頂いている。 | 受診に行きながら、家族の方が利用者の馴染みの友達を連れてきては一緒にお茶を飲み話をする。孫が面会にきたり家族は利用者を預けっぱなしではなく一緒に行事参加をし一緒に手伝ってもらえる。 | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員も一緒にお茶を飲んだりする事によって、いろいろな話が聞けたり、会話が途切れずにいられる。利用者の方も、落ち着いた時間がとれる。何事にも常に一緒にやることに努めている。 | | |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後も、家族との関係を大切にし、情報を得ている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の思いをできる限り実現できるように家族来所の際には、問いかけたり努力をしている。 | センター方式の利用によりアセスメントしている。利用者の生活歴を確認し利用者の思いを出来る限り実現できるように家族と相談し行っている。また、利用者のペースにあわせ昼寝をしたい人にはしていただき思い思いに過ごせるようにしている。 | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族等に、どのような生活をされてきたのか、機会ある毎に支障のない範囲でお聞きしている。また、本人にも覚えている範囲で聞かせて頂いている。 | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日決まった時間に、バイタルチェックを行っている。一人ひとりの状態、状況に於いては、朝・夕の申し送りにて周知徹底を図っている。 | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 定例会議で必要性がある際には、職員間の意見を取り入れ、本人に添ったプランを作成している。家族来所の際や家族会の際にも家族としての意見をお聞きしている。 | 介護計画は3ヶ月の見直しや毎月のモニタリングを行い、変更が必要なときは随時見直しを行う。家族の面会時や家族会の際に意見を伺い、担当職員と定例会などでプランの見直しや計画を立て直す。 | |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 業務日誌に日々の記録、個別ケースにも転記をしている。個別ケースに於いても、プランの結果を記入、申し送りノートにも記入し、職員間で情報を共有している。 | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | レベル低下にとまない、グループホームでの生活が困難になった場合を考え、特養施設の申し込み等の相談に応じている。通院など必要に応じて、送迎なども行っている。 | | |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 月一回の朗読ボランティア、マジック、学生ボランティアの受け入れや、小学校との交流を楽しみにされている。また、避難訓練等、地域の方の協力も得ている。食育の日で、長野朝日放送のTVに放映された。 | | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 隔週で、月2回～3回の往診にて、健康状態を見て頂いている。変化があった際には医師に電話連絡の上、通院としている。 | かかりつけ医はホームに往診して下さる医師がいるため家族の希望により、変更になることが多い。病状などにより家族が受診に連れて行く方も数名はいる。家族への連絡は密に行い説明を行っている。 | |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 隣接している施設の看護師に相談したり、かかりつけ医の看護師に状況を伝え、相談を持ちかけている。 | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療機関との連携はとれている。入院時は頻繁に職員が見舞うようにし、家族と情報交換をしながら、回復状態と速やかな退院支援に向けている。 | | |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化やターミナルに向け、本人や家族の意見を尊重しながら出来るだけ努力をしていく。家族会に於いても、ターミナル、看取りについてお伝えしている。 | 特養の指針を元にターミナル指針が作られた。終末期をホームで迎えた方が一人おられた。家族と何回も医師を含め話し合いを行い家族とともにホームで看取りを行った。この経験をもとに家族が希望され、ホームで出来ることを説明し理解が出来れば看取りもしていく。運営推進会議でも報告している。 | 利用者の高齢化が進み、ターミナル指針も作られた事を機に、重度化に伴う段階的な合意を得て、利用者、家族の安心と納得が得られるように意思確認書などの作成への取り組みも今後期待したい。 |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアル作成有り。急変時における最低限の応急処置は心掛けています。各研修に積極的に参加し、意識を高めている。 | | |
| 35 | (13) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 特養泉平ハイツと合同にて防火訓練を行うと共に、地域推進委員会の場に於いても協力が得られるよう働きかけている。防火管理者を配置している。 | 年に特養と合同に2回とホーム独自に1回行っている。地域住民も参加し全員避難し、夜間想定訓練、消火訓練も行った。住民はたすきをかけ、支援者と判る協力体制ができた。地震の経験もあり対策を取っている。夜間は特養含め7人の職員が協力できる。スプリンクラーの設置予定である。 | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人を尊重した対応を常に心掛けている。 また、言葉掛けもお互いに気をつけあっている。 本人に関わる情報伝達についても、スタッフのみで行っている。 | 室内のポータブルには利用者のプライバシー配慮のため、目隠しをしている。また廊下の隅に置いてあるポータブルもカバーをしている。また、食事時に先に食べようとする利用者に対し他の利用者が怒り出したときにも本人のプライドを傷付けないように言葉がけしている姿も見受けられた。 | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 散歩や外出の声掛け、地域の行事への参加等、一人ひとりの状況や思いを大切にしながら決定している。 | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースに合わせながら、気持ちを考えての見守りをしている。特に入浴に於いてはゆっくりと入って頂いている。 買い物や散歩等、一人ひとりの状態や希望にも配慮をしている。 | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 年をとっても、いつまでもおしゃれでいたい気持ちを大事にしている。 カット・毛染めについても、本人の希望、職員の配慮から定期的にきれいにしている。 | | |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 時々何が食べたいか、好きなものは何か、ちらしを見ながら聞いている。 硬いものが食べにくい方に於いては、細かく刻んであげている。 一人ひとりができるお手伝いをお願いしている。 | 食事作りにも利用者ができることは一緒に行い、食事の後も食器を拭いたり、ゴミだしに職員と一緒に出かける姿が見受けられた。四季折々には食会と呼ばれるボランティアが来て食べたいものを一緒に作って食べるなどの楽しみもある。 | |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食べる量は、その人に応じた量を出している。 毎食摂取量をチェックし記入。水分については、いつでも好きな時間に摂れるよう、ポットにお茶を用意してある。 | | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔体操をしている。ハブラシ、コップの消毒をしている。毎食後の歯磨きの声掛け、見守り介助を行っている。一人ひとりにあった磨き方を工夫し、口腔状態の異変にも気づくよう観察をしている。 | | |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 声掛けでトイレ誘導したり、失敗をされても、自尊心を傷つけないように処理をしている。特に夜間のトイレが頻回で、失敗の多い方には、睡眠不足になりやすい為、リハビリパンツをはいて頂いている。 | 日中は布パンで過ごされる方が多い。夜間は良く眠れるようにリハビリパンツにするなどその方の様子により対応をしている。また、時間で誘導するときも本人の自尊心を傷つけないように対応している。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便の確認が取れば排泄表に記入をしている。便秘予防に毎日牛乳と果物は欠かさず摂取して頂いたり、メニューにも気をつけている。また、散歩は毎日職員と出掛けている。 | | |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 火・木・土で入浴日となっているが、都合で入浴ができない場合に於いては、他の曜日に替えて実施している。入浴の順番も、気のあった者同士と一緒に入浴ができるようにしている。 | 入浴日は週3回で決められてはいるが、ユニットごとに協力し合い、希望があれば他のユニットで入浴できるように対応している。利用者のタイミングを見ながら誘うように心がけている。 | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 食後はなるべく休んで頂くようにしているが、本人の思いに応じている。夜間は、トイレ以外比較的良く休まれています。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ファイルにて職員は一人ひとりの把握に努めている。また、服用時本人に渡し、必ず確認をしている。薬の疑問点が生じた場合には、医師に問い合わせをしている。 | | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯、キッチン、掃除、花の水くれ等、一応役割分担を決めて一緒にお手伝いをして頂いている。また、テレビの好きな方にはテレビを観て頂いたり、余暇を楽しんで頂いている。 | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 毎日の散歩には、お互いに声を掛け合っで行かれている。週2回の食材の買い物にも、気分転換になると言い、喜んで行ってくれる。地域の催し物、四季折々に計画を立て外出をしている。 | 今年は、インフルエンザもあり玄関前でお茶を飲み、歌を歌う。ホーム敷地内の散歩や中庭で散歩する。また、車で桜、パラ園、戸隠に出かけたりする。外に出かけることは笑顔で目がいきいきされるので、計画を立て出かけられるように努めている。 | |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 管理不可の為、職員管理となっている。購入希望があれば本人に聞き、担当が購入している。購入した物を本人に見せ、了解をして頂いている。 | | |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族や知人からの贈り物や手紙が届いた時には、お礼の電話を入れている。また、本人の希望を聞き、電話に出て頂いている。 | | |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 和室に神棚、今年は縁起物のダルマを飾りまた、善光寺の御開帳で回向柱を買い、家庭と同様にあじわって頂いている。玄関先には壁画を飾り、季節感を取り入れている。毎月りんどう新聞も掲示し、出来事を思い出して頂いている。 | 居間のスペースには、小学生と一緒に作った利用者の似顔絵の入った置物や、季節感を表すように落ち葉を折り紙と共に貼り付けて季節が感じられる。また、ドライブに行ってきたときの気の合う友達との写真も貼られている。玄関先にはちょっと座って話の出来るソファが置いてあり利用者の落ち着いた場所になっている。 | |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | おやつ、食事以外にも自由にリビングにいたり、各居室に入ったり、思い思いの時間を過ごして頂いている。キッチン前のソファに座り、職員と話をしたり、時にはお手伝いをして頂いている。 | | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には、家から持って来て頂いた馴染みの物や、思い出の写真を飾ったり、本人に合った工夫を家族と共に相談しながら、支援をしている。 | 自室には仏壇が持ち込まれている人もおられる。また、孫や家族が利用者の馴染みのものや写真などを持ってきて家族と一緒に飾るなどしてある。また、どの部屋にも花の鉢などが置かれており心地よい雰囲気がかもし出されていた。 | |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりの身体レベルを観察しながら、安全に配慮し、必要な所にはイスやソファを置き、腰のおろせる場所を用意している。 | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 入り口に大きく張り出しており、日々目を通し確認できるようにしています。また会議等でも、基本的な考えについて話し合っている。 | 理念は、5つ掲げられ月1回の職員会議で共有している。また、地域への発信は地域に発行している新聞などでも行っている。事業計画の中にも方針として地域密着型サービスとして地域との支えあい、家庭的なぬくもりの中で利用者一人ひとりに合わせた生活とうたっている。 | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 東小学校の運動会や音楽会に出掛けたり、地区のボランティア等交流を図っている。 | 東小学校との交流が年4～5回あり音楽会にも招待される。利用者とお手玉、トランプなど行い楽しいときを過ごす。地域の祭りに参加やホームの夏祭りに招待し交流を図っている。また、食会と呼ばれる食事改善普及会のメンバーが四季折々に利用者の食べたいものを作りにきてくれるなど楽しみの場になっている。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 家族会の場に地域の方にも参加して頂き、意見、要望等お聞きしたり、しらかば新聞を組長さんを通して、地域に回覧して頂いている。 | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地域包括センター所長より、概要や必要性を説明して頂く。またその都度話し合いを行い、サービスの向上を図る。 | 地域住民、組長、地域ボランティア、包括支援センター、家族代表の方が集まり2ヶ月に一回は行っている。家族会も兼ねて年2回は行っており多くの家族参加の中でたくさんの意見をいただき、ホームの理解もなされている。この中で看取りに付いても課題になった。 | |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 管理者と共に出向き、困難事例は相談にのってもらっている。 | 介護あんしん相談員が定期的に訪問されている。介護認定などで困ったことがあれば、随時相談している。 | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての研修学習したり、会議でも、話し合いをして、拘束なしのケアを徹底している。 | 身体拘束については十分理解なされ、研修会に行った職員から車椅子に座らせられていることの苦痛なども学び苦痛のない取り組みに努めるなど日常の中での対応の工夫もしている。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 言葉の虐待に気をつけて、職員同士声を掛け合うなどしている。またユニット会議などでも振り返りを行っている。 | | |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修に参加し、復命等で職員に伝達している。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居者の事前面接を行い、利用者、家族が納得できるまで説明し、理解して頂いてから契約、印鑑を頂いている。 | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情処理委員会(年数回)の開催がある。苦情箱を設けたり、利用者の小さな不満にも耳を傾け、家族にも面会時、話を伺っている。 | 家族の面会時にそのつど家族の思いや意見を聞くようにしている。また、苦情処理箱を設けており、苦情処理委員会が法人の中に設置されている。運営推進会議に家族会と併せて行うときは多くの意見が出され、職員の異動に対しても苦言なされ2人担当により利用者の異動時のダメージの軽減に努めた。 | |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月の会議で互いにアイデアを出したり、アドバイスあっている。申し送りノートを活用している。 | 毎月の会議で意見をいう場がある。日常生活の中でも職員やリーダーとの間で失敗や意見など言える関係がありチームワークがなされている。 | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | <p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p> | <p>就業規則に沿った勤務体制で、資格、経験、学歴等考慮している。</p> | | |
| 13 | | <p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>段階に応じた研修があり、他の職員にも伝達している。</p> | | |
| 14 | | <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>善光寺グループホーム会議に隔月で参加している。実践者研修の仲間との交流を継続し意見交換をしている。</p> | | |
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | <p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p> | <p>事前面接を行い、入居前のサービス提供者からも情報を得てから、相手を理解している。</p> | | |
| 16 | | <p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p> | <p>家族の悩みや希望を傾聴し、家族が安心して相談しやすい雰囲気作りを心がけている。また面会時には職員から言葉掛けするよう努めている。</p> | | |
| 17 | | <p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p> | <p>事前に打ち合わせをし、変化が見られたときには必ず家族に報告し、本人と共に話し合いを持ち結論(方向性)を出すようにしている。</p> | | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 人生の先輩であることを常に忘れずに色々と教えてもらい、共に行動する様になっている。(畑仕事、料理、縫い物等) | | |
| 19 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族に恵まれており、来所の際には状況を報告し、安心した生活が送れるよう、家族と共に見守りながら支援をしている。また入所前の個人的付き合いが継続できるよう支援している。 | | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 知人、友人に来て頂いてお茶飲みしたり、家族と一緒に外食、お墓参り、買い物に出掛けたり、個々の時間を過ぎて頂いている。 | 受診に行きながら、家族の方が利用者の馴染みの友達を連れてきては一緒にお茶を飲み話をする。孫が面会にきたり家族は利用者を預けっぱなしではなく一緒に行事参加をし一緒に手伝ってもらえる。 | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | お互いにできることに参加し、しらかば一家であることをお話している。散歩に行くときには気の合う方同士声を掛け合い、入浴時にも馴染みの関係を大切にしている。 | | |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後も、家族との関係を大切にし、交流がある。(死亡退所後の家族とも、手紙、電話、訪問など行っている) | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の希望があったときには、家族とともに話し合い、できる限り実現できるよう努力している。 | センター方式の利用によりアセスメントしている。利用者の生活歴を確認し利用者の思いを出来る限り実現できるように家族と相談し行っている。また、利用者のペースにあわせ昼寝をしたい人にはしていただき思い思いに過ごせるようにしている。 | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族等に、どのような生活をされてきたのか、機会ある毎に支障のない範囲でお聞きしている。また、本人との関わりの中でも把握している。 | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 朝食時、新聞の情報や本日の予定などお知らせしている。朝食後落ち着いた所でバイタルチェックや一人ひとりの状態を申し送り、周知徹底している。 | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員側からでなく利用者全体の生活を中心のケアとなるよう、家族の意見も取り入れプランを作成している。 | 介護計画は3ヶ月の見直しや毎月のモニタリングを行い、変更が必要なときは随時見直しを行う。家族の面会時や家族会の際に意見を伺い、担当職員と定例会などでプランの見直しや計画を立て直す。 | |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 業務日誌に日々の記録、個別ケースには更に詳しく記録をしている。職員は仕事に就く前には、各記録に目を通し情報を共有している。 | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | レベル低下にともない、グループホームでの生活が困難になった場合を考え、特養施設の移動実施、また申し込み等の相談に応じている。通院など必要に応じて送迎なども行っている。 | | |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 月一回の朗読ボランティア、マジック、学生ボランティアの受け入れや、小学校との交流を楽しみにされている。また、避難訓練等、地域の方の協力も得ている。テーマ「食育の日」で、長野朝日放送のTVで取材、放送された。 | | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 泉平ファミリーとして、毎週りんどう、しらかば、交互往診にて健康状態を見て頂いている。変化があった際には医師に電話連絡の上、通院としている。心配なことがある場合は家族に連絡相談、入院等必要な時は家族と共に付き合う。 | かかりつけ医はホームに往診して下さる医師がいるため家族の希望により、変更になることが多い。病状などにより家族が受診に連れて行く方も数名はいる。家族への連絡は密に行い説明を行っている。 | |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 隣接している施設の看護師に相談したり、かかりつけ医の看護師に状況を伝え相談を持ちかけている。 | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院、退院等は情報交換し、グループホームに戻った時の過し方は家族と共に話し合う。入院時には担当、リーダーが頻回に見舞い状態を把握し支援する。 | | |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人や家族の意見を尊重し安心して最期を迎える事出来る様医療機関と連携をもちながら対応している。また家族会に於いても、ターミナル、看取りについてお伝えしている。 | 特養の指針を元にターミナル指針が作られた。終末期をホームで迎えた方が一人おられた。家族と何回も医師を含め話し合いを行い家族とともにホームで看取りを行った。この経験をもとに家族が希望され、ホームで出来ることを説明し理解が出来れば看取りもしていく。運営推進会議でも報告している。 | 利用者の高齢化が進み、ターミナル指針も作られた事を機に、重度化に伴う段階的な合意を得て、利用者、家族の安心と納得が得られるように意思確認書などの作成への取り組みも今後期待したい。 |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアル作成有り。 急変時における最低限の応急処置は心掛けています。 医師の携帯番号を聞いており、アドバイスを受けられるようになっている。 各研修に積極的に参加し、意識を高めています。 | | |
| 35 | (13) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 特養泉平ハイツと合同にて防火訓練を行うと共に、地域の方にも参加して頂いている。推進委員会でも協力が得られるよう働きかけている。 防火管理者を配置している。 | 年に特養と合同に2回とホーム独自に1回行っている。地域住民も参加し全員避難し、夜間想定訓練、消火訓練も行った。住民はたすきをかけ、支援者と判る協力体制ができた。地震の経験もあり対策を取っている。夜間は特養含め7人の職員が協力できる。スプリンクラーの設置予定である。 | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人を尊重した職員の対応を目指し、常に言葉掛けもお互いに気をつけあっている。 月1度の会議にも話し合い、改善するようにしている。 | 室内のポータブルには利用者のプライバシー配慮のため、目隠しをしている。また廊下の隅に置いてあるポータブルもカバーをしている。また、食事時に先に食べようとする利用者に対し他の利用者が怒り出したときにも本人のプライドを傷付けないように言葉がけしている姿も見受けられた。 | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 散歩や外出の声掛け、また入浴やお昼寝時の過ごし方、地域の行事への参加等、一人ひとりの状況や思いを大切にしながら決定している。 | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースに合わせながら、気持ちを考えて見守りをしている。食事等見守りのグループと介助のグループのテーブルについて頂き、皆さんのペースに合わせた時間をとっている。 | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 年をとっても、いつまでもおしゃれでいたい気持ちを大事にし、化粧品や化粧水など用意している。 好きな洋服を選んで着てもらう。 カット・毛染めについても、本人の希望、職員の配慮から定期的にきれいにしている。 | | |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 盛り付け、下ごしらえ、後片付けなど職員と共にできるお手伝いをお願いしている。 専用エプロンを使い、衛生面の意識レベルを高める。会話の中で食べたい物を聞き、食べやすいように工夫している。 | 食事作りにも利用者ができることは一緒に行い、食事の後も食器を拭いたり、ゴミだしに職員と一緒に出かける姿が見受けられた。四季折々には食会と呼ばれるボランティアが来て食べたいものを一緒に作って食べるなどの楽しみもある。 | |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食べる量は、その人に応じた量を出している。 毎食摂取量をチェックし、記入水分については、いつでも飲めるようにしてある。計画作成者が管理栄養士でもあり献立のチェックをしている。 | | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔体操をしている。ハブラシ、コップの消毒をしている。毎食後の歯磨きの声掛け、見守り介助を行っている。就寝時には薬剤消毒管理を行い、一人ひとりに合った磨き方を工夫し、口腔状態の異変にも気づくよう観察をしている。 | | |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の習慣や、パターンを理解しており、声かけでトイレ誘導、ポータブル誘導している。居室に排泄表をおき、排泄状況のチェックをしている。 | 日中は布パンで過ごされる方が多い。夜間は良く眠れるようにリハビリパンツにするなどその方の様子により対応をしている。また、時間で誘導するときも本人の自尊心を傷付けないように対応している。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘予防に食材の工夫や適度な運動を取り入れている。毎日牛乳と果物は欠かさず摂取して頂いたり、メニューにも気をつけている。 また下剤使用の方の便の状態には職員間の連絡を密にしている。 | | |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 月・水・金が入浴日となっているが、都合が入浴できない場合には、他の曜日に替えて実施している。入浴の順番も、気のあった者同士と一緒にいることができるようにしている。 | 入浴日は週3回で決められてはいるが、ユニットごとに協力し合い、希望があれば他のユニットで入浴できるように対応している。利用者のタイミングを見ながら誘うように心がけている。 | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個別対応なので、昼寝の時間は自由にしてあります。午後のおやつ時間まではその方のペースで過ぎて頂いている。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 各利用者の薬の内容を配薬前に確認し、職員は一人ひとりの把握に努めている。また、服用時本人に渡し、服用を必ず確認をしている。 | | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯、キッチン、掃除、花の水くれ等それぞれできることを一緒にお手伝いをして頂いている。また、毎日の当番を決めて、食事やおやつの中には挨拶をもらっている。 | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 毎日の散歩には、お互いに声を掛け合い出掛けて行かれる。地域の催しや、四季折々に計画を立て外出をしている。 | 今年は、インフルエンザもあり玄関前でお茶を飲み、歌を歌う。ホーム敷地内の散歩や中庭で散歩する。また、車で桜、公園、戸隠に出かけたりする。外に出かけることは笑顔で目がいきいきされるので、計画を立て出かけられるように努めている。 | |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 管理不可の為、職員管理となっている。購入希望があれば本人、家族と相談してから、担当が購入している。購入した物を本人、家族に見せ、了解をして頂いている。 | | |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族や知人から贈り物や手紙が届いた時には、お礼の電話や手紙を書いたりしている。また、本人の希望を聞き、電話に出ている。 | | |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 和室に神棚、床の間、掛け軸などもある。また、玄関先には毎年大きくなっていくしらかばの木の貼り絵で、季節感を味わってもらえるよう工夫している。 | 居間のスペースには、小学生と一緒に作った利用者の似顔絵の入った置物や、季節感を表すように落ち葉を折り紙と共に貼り付けて季節が感じられる。また、ドライブに行ってきたときの気の合う友達との写真も貼られている。玄関先にはちょっと座って話の出来るソファが置いてあり利用者の落ち着いた場所になっている。 | |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 長いすを置き、一人でゆっくりと過したり、仲良しグループの団樂の場になっている。また職員との会話の時間も大切にしている。 | | |

外部評価結果(認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には、家から持って来て頂いた馴染みの物を自分の好きな所に置き、出窓には観葉植物や季節の花等を飾り、また思い出の写真や好きな歌手のポスター等貼り楽しまれている。 | 自室には仏壇が持ち込まれている人もおられる。また、孫や家族が利用者の馴染みのものや写真などを持ってきて家族と一緒に飾るなどしてある。また、どの部屋にも花の鉢などが置かれており心地よい雰囲気がかもし出されていた。 | |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | その人らしい生活ができるよう、入居前の環境を大切に、個々のできることをやっていただいている。一人ひとりの身体レベルを観察しながら、安全に配慮している。 (足の痛い方には腰掛けて食器拭き) | | |